



2011年8月15日 発行

2011年夏号

<第16号>

編集・発行/社会福祉法人ワークスユニオン 代表/下野英世 〒551-0001 大阪市大正区三軒家西1丁目17-18 TEL06(6556)0881 FAX06(6556)0882 works-union@y3.dion.ne.jp http://www.v-aid.org/union/

「私のかなっぺほしい事」

私は、将来は、自立して
アパートで一人暮らしをして
みたいです。理由は、いつま
でも親兄弟に世話には、なれ
ません。お姉さんとお兄さん
も結婚をしてとても大変そう
なので家族の面倒だけ見れる
ようにしてほしいです。

旅行へ行ってみたいです。
場所は、海外です。海外へ行
ってはばたきたいです。タレ
ントさんみたいにハワイへ行
ってみたいです。パカンスを
してみたいです。京都の太秦
映画村に行ってみたいです。
ふん装をして映画村を歩いて
みたいです。新撰組の近藤勇
のかっこうをして映画村とか
京都の町を散策したいです。
タレントになって会ってみ
たいです。タレントになつた
らば、刑事ドラマやサスペン
スやメロドラマに出てみたい
です。浅岡めぐみさんやゆう
こりんやAKB48の高橋み
なみや浅田みよ子さんや南あ
つきーなや松嶋菜々子や板野
友美さんと会いたいです。あ
とは、K1の試合を見に行つ
てプロ選手でボブサップに会
ってみたいです。

全て現実になっぺほしいで
す。
(川端米造)

ワークスユニオン家族支援・余暇活動 休日の楽しみの幅を広げる

「ワークスユニオン家族支援」の中心は、移動支援を活用した「余暇活動」です。

「余暇活動」では、利用者数名とそれに合わせたヘルパーとの小グループで活動を行います。その中で利用者さんは、楽しい休日を過ごすだけでなく、仲間やヘルパーとの関わりを通して、たくさんの世界を拓けているようです。

休日の「余暇活動」は、た。ところが、ここ一、二年は内容が難しそうであたり、イベントの規模が小さかったりすると人数は集まりません。

夏のビール工場見学や、花の美しい時期の公園散策は人気がありますが、時期が外れると、人が集まらないこともしばしばです。

職員は情報誌やインターネット、過去に人気のあった案などをくまなくチェックしますが、毎回メ切に追われています。

そんな苦労にも関わらず、利用者さんの評価は厳しいものです。

以前は単に新しい企画だけでなく、人数が集まりまし

長年「余暇活動」を企画していると、目的地までの交通機関や公共施設の利用の仕方は、参加する利用者さんの方がよく知っていることがあります。

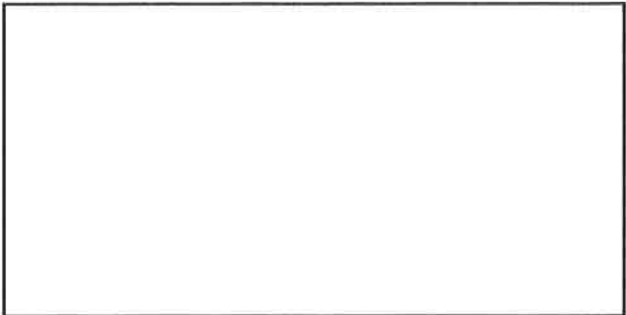
そんな時は、利用者さんが「この駅は急行停まるで。」と得意気にヘルパーに教えながら、先頭に立って歩きます。その度に「どっちがヘルパーかわかりません。」と、ヘルパーからすまなそうに報告が上がります。

しかし、決してヘルパーが役目を果たしていないわけではありません。ヘルパーは、利用者さんが苦手な切符の買い方や活動場所での手続きなど、彼らが出来ないことだけを、そつと後ろから手助けします。

また、仲間との関係作りが難しい利用者さんの会話を橋渡しし、グループの雰囲気盛り上げてくれます。

こうしたヘルパーの一つひとつの丁寧な関わりが、彼らの楽しい休日を支え、

次の日の活力に繋がっています。



利用者さんがヘルパーに見せる顔は、保護者の方や職員に見せる顔とは、随分と違うようです。

例えば、利用者さんが年下の学生のヘルパーと、ボウリング対決をすることになった時のこと。たまたま利用者さんより良いスコアを出してしまったヘルパーに対し、悔しかった利用者さんが放った一言。

「空気読んでえやあ。」
そうかと思えば、同じ利

用者さんが70代の上品なヘルパーとカラオケに行った時は、ヘルパーに合わせ懐メロや一緒に歌える唱歌を選曲します。

どの場面も利用者さんの本当の姿です。それぞれのヘルパーに見せる顔を大事にしたい。そして、たくさんの人との関わりの中で、たくさんの世界を拓けてほしいと思います。

ヘルパーとの活動は、年々増える傾向にあります。一方で、未だ全く利用していない方もいます。

その理由は、今の情報提供では活動が想像できないことや、顔を知った利用者さんやヘルパーがいなくて大きいです。そうした人達へのアプローチにも取り組みたいと思います。

そして、ヘルパーとの活動が、単に楽しみの幅を広げるだけではなく、生活の幅をも拓げていく活動に繋がっていきたく思います。

(坂田)

楽しいひと時が、

明日の鋭気を

「移動支援」事業の歴史を少し紐解くと、一九八七年に、大阪府枚方市で、知的障害者へのガイドヘルパー派遣として始まり、大阪市では、一九九三年から実施されています。

二〇〇三年支援費制度の導入に合わせて、「移動介護」という名称で「居宅介護等事業」の中に位置づけられ国の制度となりましたが、二〇〇六年の「障害者自立支援法」施行により、「移動支援」として市町村が実施する地域生活支援事業に位置づけられています。

一人で外出することが、「出来ない」「苦手な」「不安のある」障害を持つ人にとって、社会参加と自己実現の重要な手段となっています。

「移動支援」に歴史のある大阪市では、利用できる時間数も51時間と全国平均よりはるかに長くなっており、ワークスユニオンの利用者の皆さんにとっては、外出の機会を提供してくれると共に楽しみも提供してくれる重要な活動となっています。

ワークスユニオンでは、私たちがワークスユニオンこの「移動支援」事業を非常が目指すのは、一人ひとりに重要な事業と考え、法の利用者の「自分らしく充人設立の頃より実施している。実した暮らし」の実現。そのためには、アフター

ファイブや週末の過ごし方もとても重要。

見たいテレビや、聴きたい音楽があるから、テレビを見たり音楽を聴いたりするのは、それもひとつの楽しみ方と尊重したい。

しかし、本当は遊びに行きたいのに、両親が忙しくてどこにも連れて行ってくれないからただテレビを見続けているとしたら、休日を楽しく過ごせているとは言えない。

しかし、親御さんの立場で考えると、時には自分の休養を優先したい時もあるだろう。

自分自身を振り返ってみても、休みもままならない状況で仕事をしてきたので、子供を遊びに連れて行くことなど、ほとんどなかった。たぶん子供たちには、寂しい思いをさせていたのだらうと今になって反省している。

事業開始のころは、休日の余暇の提供として始めた「ワークスユニオン家族支援」の活動は、年々その活動範囲も広げ、二〇〇六年の「障害者自立支援法」の施行に合わせて、身体介護や家事援助を行う「居宅介護事業」も行なうようになり、「ガイドヘルパー」だけではなく、「二級ヘルパー」の資格を持つヘルパーも増えてきたので、「どんな活動」がしたいかによって、「移動支援」、「身体介護」、「家事援助」のサービスより好きなサービスを選べるようになった。

まだまだケアホームの利用者が中心だが、帰宅後、野球のナイトゲームを観戦に行く人、カラオケに行く人、ケアホームの夕食をキヤンセルしてヘルパーと外出に行く人、狭い自室のお風呂ではなくゆつたりと入浴を楽しむためにスーパースーパー銭湯に出かける人……。

ケアホームの利用者のアフターファイブは、かなり充実してきている。利用者の中には、年に一度か二度ヘルパーと旅行に行くのを心待ちにしている人もいる。

ヘルパーに教えてもらいながら、休日の昼食作りやチャレンジしている女性の利用者も何名かいる。

ケアホームの利用者だけでなく、他の利用者にも少しずつ利用できる部分を拡大します。要望があれば声をかけてください。

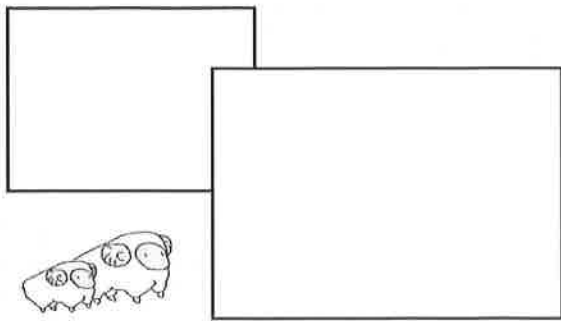
制度的には、そこまで想定していないのだけれど、私たちのこの活動は、将来的には、「趣味の活動」の創造にも踏み込んでいきたいと考えている。

「かけがえのない人生」だから、みんなに「楽しく」生きて欲しい。(南石)



野外活動に行ってきました!

六月三日に「ワークス
和」は、毎年恒例行事の野
外活動で兵庫県にある「ヨ
ーデルの森」へ行きました。



「ワークス和」は、法人
設立当初からの事業所です
が、当時より、「色々な所に
行って楽しい事をしてほし
い!」利用者、保護者、職
員が集まって交流できる行
事がしたい!という保護
者や職員の思いから、野外
活動を行ってきました。
毎年、野外活動では、日

常の仕事から離れ、休日の
余暇活動では行けないよう
な遠い所で、普段はなか
か見ることや感じるものが
出来ない体験をしています。
今年、山に囲まれた自
然の中で、馬や羊などおな
じみの動物から、ダチョウ
やアルパカなど、珍しい動
物と間近で触れ合うことが
でき、コンドルやフクロウ
など大型鳥たちのバードシ
ョーを見てみんな大興奮で
した。中には間近で飛び鳥
たちにびっくりして泣き出
してしまふ人もいました
が、
お楽しみみのアイスクリー
ム作り体験では、職員が塩
水を混ぜてしまいバナニア
イスを塩アイスにしてしま
うアクシデントもありまし
たが、利用者だけでなく保
護者、職員も一緒に楽しん
で、笑いの絶えない活動に
なりました。
今後、普段は感じられな
いような刺激のある楽しい
活動を企画していきたいと
思います。(横田)

職員紹介

坂田博子(右)

利用者の人生に関
わることが好きという彼女
人とのつながりを大切に、
利用者さんの内にあるもの
を大切に、より良い余暇を
すごしてもらえよう支
援しています。
そんな彼女のプライベート
も、ジョギング・山登り・
ヨガ・お菓子作りと、充実
した余暇をすごしているよ
うです。そのうえ「食べる
ことと寝ることが大好き」
。なんと余暇にあふれてい
る女性なのでしょう。

川尻竜義(中央)

ヘルパーとして利用者
さんと関わり始めて三年が

経ち、四年目の今年は居宅
職員としての新たな一年目
になりました。とても無口
な23歳です。
しかし無口といっても、
何も考えていない、という
わけではありません。仕事
は驚くほど速く、自分の仕
事をしながら先輩職員のフ
ォローに回れる、とても頼
れるやさしい男であります
今後彼の動きに注目
です。

森山加代子(左)

エルチャレンジ、翔を
て、現在は居宅担当として
利用者の自立への一歩を支
えます。「なんでもやっ
てみなわからん!」と、持ち
前の石橋を叩き割りながら
進む精神で、簿記・着付講
師・調理師・ケアマネ等、
様々な資格を取得しました。
そんなアクティブで前向
きな彼女ですが、利用者さ
んには細やかな支援を心が
け、「利用者さんのプライ
バシーを尊重したい」と、
真摯な瞳で語ります。

編集後記

ワークスユニオン利用
者の平均年齢は40歳を超
え、中には65歳を超える方
もいます。一般的には、65
歳を超えると定年退職。第
二の人生を考えなくてはな
りません。しかし、ワー
クスユニオンには定年退職
はありません。彼らの望む
場所、ずっと居ることの出
来る場所、豊かな人生を送
り続けるために、どんな居
場所を創つたらいいのだろ
うか。日中の作業所の形は、
仕事中心それともデイケア
的に。土日の過ごし方はど
のように支援をしていくの
がいいのだろうか。利用者
一人ひとりの顔を想像しな
がら日々職員は考えます。
▼これから、ワークスユニ
オンは、高齢化・重度化に
向けた支援を強化してい
なければなりません。ずっ
と支える・一生涯の支援を
めざして、一人ひとりが豊
かに暮らしていくために。

(黒川・野々村)

(M)